



〈連載③〇〉

ロイヤルバイキング・ シーの船旅



大阪府立大学船舶工学科助教授

池田良穂

今年の秋に、世界の客船では「ファイブスター・プラス」とトップレベルにランクされるクルーズ客船ロイヤル・バイキング・シーに乗船した。最近では、自分への投資の意味もあって、多少無理をしてもいろいろな高級客船にも乗ることにしている。一通り乗って見なくては、世界の客船界全体の分析も難しかろうと思っているからである。それまでは、単に自分と家族が楽しければよいのであって、いろいろな情報から最も自分にあった船を選んで船の旅を楽しんできた。一サラリーマンの筆者としては、限られた予算の中でどれだけ大きな楽しみを引き出せるかが、船旅を選ぶ判断基準であったわけである。

しかし、日本でもクルーズがブームになってきて、時々講演を依頼されたり、座談会に出席したり、原稿を頼まれたりすると、今までの自分の体験だけでクルーズ客船界を云々するには若干の後ろめたさも感じるようになった。そこで、今年は清水の舞台から飛び降りたつもりで、世界のクルーズ界ではトップレベルにランクされている2隻の客船に乗船することとした。一隻は日本では最も有名な客船で、香港から日本までこの春に乗船した。この船は驚くほどの低レベルのサー

ビスと食事内容で、これがなぜ高いランクに評価されているのか理解に苦しむほどであった。筆者が体験している大衆的なカリブ海クルーズの内容と比べても雲泥の差で、家族3名で大金（筆者にとっては）をかけたのが悔やまれたほどであった。

この航海があったので、秋にロイヤル・バイキング・シーへの乗船を決めるにあたっては若干躊躇した。また、同じ体験をしてお金を無駄に使ってしまったのはつまらないと思ったからである。しかし、同船を運航するロイヤル・バイキング・ラインは、日本人の船旅ファンにも評判がよく、悪い噂はほとんど耳にしない。しかも、この秋の香港クルーズは、いつもだと一日4万円近い同社の船としては、珍しく半額近い値段設定のスペシャル・クルーズであった。香港への片道の飛行機代とホテル費用も入れて20万円程度のバックツァーであったから、比較的参加しやすいものであった。

こうして、神戸港からロイヤル・バイキング・シーに家族ともども乗り込むこととなった。香港まで4泊5日の船旅であった。この船旅を体験してみて、この船の場合は、さすがに世界のク

ルーズ客船のトップレベルにランクされるだけのことはある、と感心させられた。船員の教育の行き届いている点がまず光っていた。そして、それはカリブ海の大衆クルーズ客船のそれよりもすこしだけ品があったように思う。筆者は、カリブ海クルーズのような、そこぬけに明るいサービスも好きだが、ロイヤル・バイキング・シーで体験したなかなかシックなサービスも心地がよかった。この船は、新しいクルーズ産業が芽生え始めた1970年代始めに就航して以来16年近くたっており、一部に傷みも見られるが、それなりのメンテナンスもなされており、それ以上にソフト面が充実

していた。まさに、クルーズはソフトが重要であることを^再最確認させられた。

エンターテイメントや各種イベントも充実していた。ディスコなど若者むきのものが比較的少ないのは、もともとこの会社の顧客層が比較的高年齢の富裕な人々が多いという性格を反映したものと考えられる。アメリカ人クルーズ・ディレクターおよびその部下のスタッフたちの、お客さんに楽しんでもらうことに対するまじめさもたいしたものであった。これはアメリカで成功しているクルーズ客船には共通した点である。

サービス部門にはほとんど白人を使っていた。



香港のオーシャンターミナルに
停泊するロイヤル・バイキング・シー



同船の多彩なショー

この会社の船は、すべてノルウェー人の船員を使ってレベルの高いサービスをするということをして売り物にしていたが、数年前に同じノルウェー系のノルウェー・ジャン・クルーズ・ライン（クロススター系）のグループに入ってから、この政策を変更し、いろいろな国の船員を使うようになった。サービス部門は欧州系が多く、キャビンの清掃を行うスチュワーデスは北欧の女性船員、船内清掃や食器の片付けなどにはフィリピン人船員を使っていた。フィリピン人船員の数は114名とのことで、全船員の20%近くを占めている。

今年の、2隻のクルーズ客船の乗船を通じて、比較的高価格（一日あたりのクルーズ料金が4万円以上）のクルーズを提供している船の実態もある程度理解できたように思う。そして、欧米

の各種クルーズ客船のランキングにも随分問題がありそうなことも。

さて、話は変わるが、来年3月にはカリブ海で大成功を収めている世界最大のクルーズ客船サブリン・オブ・ザ・シーズ（74,000総トン）に乗船視察する企画が日本交通公社の協力で実現することとなった。この船は、昨年1月に就航して以来大人気を博し、約1年くらい先までフルブックキングという。この成功の要因を実際に乗船して確かめることを目的としたもので、今後の日本のクルーズ産業を考える上でも参考になるものと思う。ご興味のある方は、詳細を日本交通公社海外旅行関西支店（担当：山本 TEL.06-271-4551）まで御問い合わせ頂きたい。クルーズの楽しみの真髓まで理解するという意味では、ぜひご夫婦で参加することを御勧めしたい。

カリブ海クルーズ乗船視察

期 間：平成2年3月23日(金)～4月2日(月) 11日間
 〈募集要項〉

- 定員：14名
- 旅行代金：850,000円
- 申込金：150,000円（費用の一部に充当）
- 締切日：平成2年2月23日(金)
 （旅券をお持ちでない方は早目にお申込み下さい）

■旅行代金に含まれるもの

(1)旅行関係諸費

- ①航空運賃（成田→マイアミ間往復ビジネスクラス・大阪←成田間往復エコノミークラス）
- ②貸切バス料金（空港→ホテル間送迎、ホテル→クルーズ船間往復バス）
- ③宿泊費用（ファーストクラスホテル2人1室、税金、サービス料・1週間クルーズ乗船費用－Kグレードキャビン予定）
- ④食事費用毎朝食・船中3食付（昼・夕食代として1日当り50ドル程度別途ご用意下さい。）

⑤添乗員費用

⑥団体行動中のチップ

⑦米国空港税（成田空港施設使用料2,000円は別途必要）

(2)視察関係諸費

①企画調査費

②視察先手配連絡費用

③講師同行費用

④通訳費用

⑤オリエンテーション開催費用

※お一人部屋ご利用については下記の通りです。

228,000円

■お申込み方法

申込金の150,000円は、下記口座宛ご送金下さい。又、お申込書は下記デスクまでご送付下さい。

■残金のお支払い

申込金を差し引いた残金については請求書をお送りしますので3月13日(火)までにお支払い下さい。

■お取消料

解除時期等		取消料
旅行開始日の前日から起算してさかのぼって	(1)48日目に当たる日以降 32日前迄 (2)32日目に当たる日以降 (3)-(4)を除く	30,000円 旅行代金の20%
(3)旅行開始日の前々日及び前日		旅行代金50%
(4)旅行開始日当日及び無連絡不参加		全額
◆お客様の任意で旅行サービスの一部を受領しなかったとき又は途中離団された場合は、お客様の権利放棄となり、一切の払戻しはいたしかねます。		

■お申込み・お問合わせは

JTB海外旅行関西支店「カリブ海クルーズデスク」
 TEL 06-271-4551・FAX 06-271-0547
 振込先：東京銀行船場支店 (☎) 253456

<視察日程>

日次	月日(曜)	地名	現地時刻	交通機関	摘要(宿泊地)	食事
1	平成2年 3月23日 (金)	大阪空港発 成田空港着 成田空港発 マイアミ着	夕刻 夜	航空機 航空機 専用バス	空路：ダラス経由マイアミへ 着後：ホテルへ (マイアミ泊)	夕：機 中
2	3月24日 (土)	マイアミ マイアミ港発	夜	船	出発まで、自由行動 午後：「サリソ.オブ.ザ.シーズ」に 乗船 (船中泊)	朝：ホテル 昼：なし 夕：船 中
3	3月25日 (日)	クルージング		船	カリブ海クルーズ産業について の船上セミナー予定 (船中泊)	朝：船 中 昼：船 中 夕：船 中
4	3月26日 (月)	ラバディー入港 (ハイチ) ラバディー出港	午前 夕刻	船	施設の整ったプライベート・ リゾートなどを視察 (船中泊)	朝：船 中 昼：船 中 夕：船 中
5	3月27日 (火)	サン.ファン入港 (プエルトリコ) サン.ファン出港	昼 夜	船	古き時代のスペインの面影が 漂うプエルトリコの首都サン ・ファン視察 (船中泊)	朝：船 中 昼：船 中 夕：船 中
6	3月28日 (水)	セント.トマス入港 (ジャマカ、アマー) セント.トマス出港	午前 夕刻	船	地球上に残された最も美しい リゾート地セント・トマス 視察 (船中泊)	朝：船 中 昼：船 中 夕：船 中
7	3月29日 (木)	クルージング		船	エメラルド色のカリブ海で終 日クルーズ船上セミナー (船中泊)	朝：船 中 昼：船 中 夕：船 中
8	3月30日 (金)	クルージング		船	船長主催のフェアウェルパー ティー予定 (船中泊)	朝：船 中 昼：船 中 夕：船 中
9	3月31日 (土)	マイアミ港着 マイアミ発 ダラス着	午前 午前 午後	航空機 専用バス	朝：マイアミ到着後、ダラス へ 着後：ホテルへ (ダラス泊)	朝：船 中 昼：なし 夕：なし
10	4月1日 (日)	ダラス発	午前	航空機	空路：帰国の途へ (船中泊)	朝：ホテル 昼：機 中 夕：機 中
11	4月2日 (月)	成田空港着 成田空港発 大阪空港着	午後	航空便	国内線にて大阪へ	朝：機 中

注：この日程表は最も新しい資料により作成しております。交通機関の都合により出発到着時刻の変更が生ずる事があります。